

特集

クリケット×佐野市

CRICKET

SANO CITY

2028年開催のロサンゼルスオリンピックで、競技種目となったクリケット。日本ではあまり知られていないクリケットですが、実は競技規模がサッカーに次ぐ世界第2位のメジャースポーツなのです！
今月の特集では、クリケットと佐野市のつながりを皆さんにお伝えします！

その後、日本クリケット協会は、市内小学校などへクリケット体験を提供するとともに、小学生から高校生までを対象にしたクラブチームを結成し、市内でのクリケット普及活動を開始しました。

2011年には、民間企業などが中心となり、クリケットを活用した青少年の健全育成や国際化の推進を目的とした「クリ

なぜ、佐野市はクリケットを活用したまちづくりに取り組んでいるのだろうか。

それは、さかのぼること18年前、2007年のこと。今でこそ、本市に本拠地がありますが、当時東京に拠点を構えていた日本クリケット協会は、国内での競技普及のため広いグラウンドを探していました。その中で、首都圏とのアクセスがよい本市の地理的優位性を評価し、本市を選んだのです。

佐野市とクリケットの出会い・・・

ケットのまち佐野サポータークラブ」が発足しました。

本市の取り組みとしては、2012年「佐野ブランド」認定。2014年に、人々の交流を促進するスポーツツーリズムの推進における特徴あるスポーツとして「クリケット」を位置づけました。

そして、2018年、旧田沼高校跡地に国内で初めて国際規格に合わせて設計されたクリケット専用球場として、佐野市国際クリケット場を整備しました。



100カ国以上で愛され
競技規模は世界第2位

トップ選手の年棒は
なんと！30億円以上！

2028年！！
オリンピック競技に
追加！！

試合時間が長い！？
主流は約3時間の
T20形式！

クリケットってどんなスポーツ？



宮地 直樹さん
Miyaji Naoki

クリケットと佐野市をつなぐ

KEY PERSON

一般社団法人日本クリケット協会事務局長、クリケット元日本代表

栃木県出身、佐野市在住。スコットランド人である母の影響から、小学校5年生の時にイギリスでクリケットと出会う。クリケット日本代表として活躍後、現在は日本クリケット協会の事務局長として、クリケットの普及発展に取り組んでいる。

クリケットは、実はとてもシンプルで、子どもや初心者でも簡単に楽しめるスポーツです。

2008年にイギリスからクリケット選手が来た際に赤見小学校を訪問したことから始まったクリケットを教える学校訪問。今では学習指導要領のベースボール型ゲームの一つとして佐野市で取り入れられ、多い年では市内17校で年間150回以上も学校の授業で子どもたちにクリケットを教えています。単に運動機能の向上やクリケットを楽しんでもらうだけではなく、海外から講師を招いてクリケットを教える授業を行うことで、異文化に触れたり、英語でのコミュニケーションを図ったりと、子どもたちの世界観を広げる教材として取り入れる学校が増えています。

オリンピックの競技になるなど、今、クリケットが注目されてきています。そんな中で佐野市にクリケットがあるということは大きなチャンスだと思います。他のまちにはないクリケットが佐野市にあるって、すごく“ワクワク”しませんか。

クリケットは国内だけではなく海外と佐野市をつながてくれる無限の可能性を秘めています。クリケットを通してできることは、行政や応援してくれる企業、市民の皆さんと協力しながら佐野市がもっとおもしろいまちになるようなお手伝いしていくことだと思います。



クリケットを活用したまちづくり

本市が本格的にクリケットを活用した取り組みを始めたのは、2016年。人口減少に歯止めがかからない中、市外からの移住者、観光客などの交流人口の増加が喫緊の課題となっていました。

そこで、目を付けたのが「クリケット」。毎週のように市外からプレイヤーが訪れ、旧田沼高校のグラウンドでは、国際大会が誘致され、多くの方が本市を訪れ始めていました。これをうまく活用することで、人の流れを増大させ、その方が市内で宿泊し、飲食することで地域経済に好影響をもたらせると考えたのです。

これを実現するため、当時、国内のどこにもない本格的なクリケット場を本市に作ることで、人の流れを本市に集中させ、より多くの来訪者を獲得することを目的に、佐野市国際クリケット場を整備しました。



また、市民の皆さんにもクリケットに親しみを持ってもらおうと、地元高校生などの協力を得てダンス動画を作ったり、クリケット大会に合わせてクリケットが盛んな国のおいしい料理を味わえるイベントを開催したりしました。

クリケットがあることで！

国内唯一の天然芝ピッチを有するグラウンド「佐野市国際クリケット場」が佐野市にあることで、国内外からも注目されており、充実した施設のある場所で練習がしたいと、本市に移住してくるプレイヤーもいるほどです。

宮地さんをはじめとする日本クリケット協会の活動により、市内には幼少期からクリケットに親しんでいる子どもたちも多くなってきました。2019年、佐野市国際クリケット場で開催された19歳以下クリケットワールドカップ予選には、本市出身の3人の選手が出場、予選を勝ち抜き、翌2020年に南アフリカで開催されたワールドカップ本選への出場を果たしました。

佐野市で育った選手たちが世界の舞台で躍進を遂げています。2028年のロサンゼルスオリンピックでの実施決定を受け、さらなる活躍に期待が高まります。



クリケットはどんなスポーツ！？

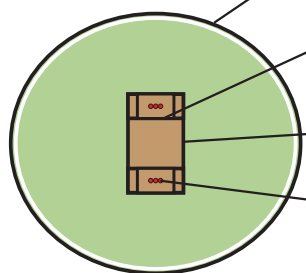


正式な形式は、広い芝生のグラウンドが必要ですが、初めてでも気軽に楽しめるさまざまな形式があり、テニスコート、体育館や公園など、どこでも楽しむことができます。

男子国際試合は半径65メートル、女子国際試合は半径55メートルの円形の全面芝のグラウンドです。

国際試合は、原則としてピッチも天然芝で整備する必要があります。整備には、投球のバウンドが基準を満たす必要があり、非常に高い専門性と経験が求められます。国内でこの基準を満たす天然芝ピッチがあるグラウンドは、佐野市国際クリケット場だけです。

グラウンド GROUND



- **バウンダリー**
プレーエリアの境界線で外周に当たる部分。ロープなどで区切る
- **クリース**
投げるとき、打つとき、走るとき基準になるライン
- **ピッチ**
投球や打撃が行われる長方形の場所
- **ウィケット**
ピッチの両端に立て、倒されないように守る

試合の流れ

MATCH RULES

試合は1チーム11人の2チームで行い、それぞれが交互に守備と攻撃（打撃）を1回ずつ行う。

守備は投手（ボーラー）と捕手（ウィケットキーパー）以外のポジションは自由に配置し、いつでも変更できる。

攻撃側は2人の打者（バッター）がグラウンドに入る。

バッター（打者） ストライカー

守備の居ない所へボールを打ちランを狙う

ウィケットキーパー（捕手）

投手の投球を捕球したりアウトを取ったりする

ボーラー（投手）

打者の後ろにあるウィケットを狙って投げる

アンパイア（審判）

投手側のウィケット後方と打者後方のライン上に1人ずつ入る

バッター ノンストライカー

打撃しない方のバッター。投手側のクリース内にバットか体の一部を入れた状態で待機

フィールダー

打者が打ったボールを捕球してアウトをとったりウィケットに返球したりする



動画解説▶

10

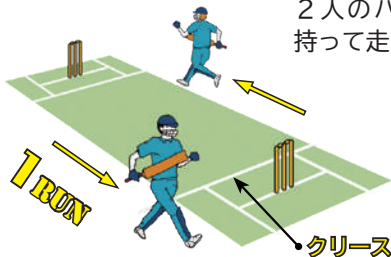
アウトで
攻守が交代します

得点の方法

TO SCORE

打撃後やウィケットキーパーがボールをそらした時などに2人のバッターがバットを持って走る（ラン）。

守備側の返球でウィケットを倒されるよりも早く、2人ともバットか体の一部がクリースを越えるごとに1点。（往復で2点）



＼野球でいう／

ホームラン！？

打球がワンバウンド以上してバウンダリーを越えると4点。ノーバウンドで越えると6点。

アウトの種類

TYPES OF OUTS

● ボールド

ボーラーが直接ウィケットを倒す

● コート

フィールダーが打球をノーバウンドで捕球

● ランアウト

走っているバッターが、クリースに到達する前にウィケットを倒す

● スタンプト

バッターがクリースから出ているときに、ウィケットキーパーがボールでウィケットを倒す

● ヒットウィケット

バッターが自分でウィケットを倒す





佐野市ではたくさんの大会が開催！



◀今後の大会
スケジュール

佐野市国際クリケット場では国内の大会だけではなく、ワールドカップ予選などの国際大会も行われています。
世界各国からたくさんのプレイヤーが、佐野市を訪れています。





特別授業「英語でクリケット」

ロンドンの「マリルボーン・クリケットクラブ（MCC）」は、クリケットのルール「The Laws of Cricket」を18世紀に制定し、国際クリケット評議会を創設したことで知られる世界一の名門クラブです。本市では、このMCCにクリケットを通じたまちづくりへの協力をお願いしています。

令和6年度は、10月下旬にMCCからコーチとしてローゼル・テュイット氏が来日し、市内の小学校などでクリケットを活用して国際理解を図る「英語でクリケット」授業を実施しました。ローゼル氏はスポーツと教育の幅広いスキルを持つプロフェッショナルで、クリケットのコーチだけではなく、

教育 × クリケット



「クリケットのまち」を掲げてから14年。クリケットの輪が少しずつ広がりを見せる佐野市では、学校教育の一環として、体育だけではなく、国際交流を目的とした「英語でクリケット」の特別授業を実施しています。

体育教諭、英語指導者としても活動しています。

今回実施した「英語でクリケット」の特別授業では、児童たちが英国文化やクリケットについて触れ、また、英語を使ってクリケットをプレーすることで、生きた英語に触れるまたとない機会となりました。子どもたちがコーチに英語で質問する場面も見られ、授業は大いに盛り上がりました。

初めてクリケットを体験した児童は「クリケットのルールを英語で学ぶのはとてもエキサイティングでした。今までクリケットをしたことがなかったけど、ローゼルコーチのおかげでとても楽しかったです」と感想を話してくれました。

また、学校の先生についても「普段は教室のなかだけで英語を学んでいます。が、クリケットを通して英語を学ぶことができ、子どもたちも本当に楽しんでいる様子でした」と「英語でクリケット」に手応えを感じていました。

スポーツを楽しみながら英語を学ぶ機会となった今回の特別授業。クリケットを通じて異国の文化に触れることで、未来ある子どもたちの世界を広げ、さまざまな視点から物事を考えることができるグローバルな人材を育てることができそうです。

本市では、クリケットを単なるスポーツではなく、国際交流や英語教育など教育の面でも利用できるツールとして捉え、さまざまな場面で活用を図っています。



天然芝の上でみんなで ヨガ



夜は花火も 夏祭り



インターナショナルな
雰囲気が味わえる
テールー広もあるよ♪



Tea room at the SICG

- ▶ 営業時間：10:00～16:00
※土日・祝日は18:00まで
- ▶ 定休日：火曜日・金曜日



佐野市国際クリケット場はクリケットだけじゃない!!

市民の皆さんに親しまれる場所となるため、佐野市国際クリケット場では、クリケットだけではなく子どもから大人まで楽しめるさまざまなイベントを実施しています。また、試合があるときも、ないときもほとんどの場合は誰でも自由に入ることができます。お気軽にお散歩やピクニックなどにご利用ください。

一緒にRUNRUN RIDE



たぬまふるさと まつり



空から佐野を見よう 熱気球



スポーツイベント スポフェス



キッズサッカー 大会



クリケットが 人をつなぐ



日本のクリケットの聖地になりつつある「佐野市国際クリケット場」では、毎年国内だけではなく海外からも多くの選手が訪れています。

国際大会が開催されると各国の選手はもちろん各国駐日大使、公使などがお見えになることも。在日インド人コミュニティのクリケット大会では、協賛企業、駐日インド大使などが試合観戦に訪れており、本市ではこれを経済や観光交流につなげる機会にするべく、市内の企業との交流の場を設けてスポーツを産業へつなぐ取り組みも行い始めています。

2028年のロサンゼルスオリンピックで正式に競技種目となったクリケット。今後ますますクリケットの認知度が上がり、競技人口も増えてくることで、佐野市国際クリケット場を有する佐野市への注目が高まり、来訪者数も増加していきます。

市としては、これからも市民の皆さんにクリケットを少しでも知っていただき、クリケットを通じた人と人とのつながりがどんどん大きくなるような取り組みを実施していきます。

また、日本クリケット協会が本市に本部を設置し、練習環境やスタッフの充実、加えてまちがクリケットを応援しているなど国内一クリケットの環境が整っていることで本市に移住し

▲駐日インド共和国特命全権大使シビ・ジョージ閣下
▼駐日英国特命全権大使ジュリア・ロングボトム閣下



てきた選手や関係者も少なくありません。クリケットがもたらしてくれた多くの出会いを大切に「クリケットの聖地」を目指し、市や市民、日本クリケット協会など多くの皆さんが一丸となって、クリケットを活用したまちづくりを進めていきます。

やったことがない。知らないスポーツだったからこそ**無限の可能性**がある

友だち・家族・仲間と「ソーシャルクリケット」

誰でも参加可能



仲間たちと少人数でチームを組み、柔らかいボールと軽いバットを使い、みんなで一緒に楽しむソーシャルクリケット。随時開催していますので、詳しくは日本クリケット協会へお問い合わせください。

クリケット体験プログラム「クリケットブラスト」

6歳～12歳



初めてクリケットをプレーする方へおすすめ！小学生から始められるクリケットを体験する競技普及プログラムです。ぜひ、一緒にクリケットを体験してみませんか？



未知の世界に飛び込んで

地元岩手県での大学時代、バレーボール大会の運営に携わるインターンシップで初めて佐野市を訪れました。そこで、たまたま出会ったのが日本クリケット協会事務局長の宮地さん。宮地さんの推しもあり日本クリケット協会でもインターンシップをさせていただきました。事務所の扉を開けた瞬間、英語が飛び交っている光景に衝撃を受けたのを今でも記憶に残っています。

クリケットというスポーツも知らず、英語も苦手でしたが、知らない世界や新しいことが好きな私は「おもしろそう！」と直感し、思い切ってこの世界に飛び込みました。

実はゆるキャラが好きで、グランプリを獲った「さのまる」くんがいる佐野市は以前から知っていました。雪国から移住したので佐野の暑さには大変な思いをしましたが、優しい人が多く住みやすいまちだと感じています。

クリケットという存在を知らなかった私だからこそクリケットの持つ魅力を伝えることができると思っています。国籍や言語が違う人たちとも交流することができるクリケットは、皆さんの世界をきっと広げてくれるでしょう！ 全国の方にクリケットを知っていただき、佐野市の人々が熱狂的なクリケットファンになってくれるよう、これからもクリケットの魅力を発信していきたいと思います。



佐藤 しおりさん Sato Shiori

PROFILE 【2022年に移住】

(岩手県出身) 一般社団法人日本クリケット協会 ビジネス・ディベロプメント・オフィサー
クリケットイベントの企画・運営、SNSを活用してクリケットの魅力を発信している。



谷山 誠さん Taniyama Makoto

PROFILE 【2022年に移住】

(大阪府出身) クリケット男子日本代表

2009年に、当時13歳で最年少の日本代表選手団に選出、現在も日本代表として活躍中。

クリケットのまちで夢を追いかけて

大阪府に住んでいる頃に中学校の部活動でクリケットに出会い、その魅力にどんどんのめりこんでいきました。高校、大学と競技を続け、神奈川県で就職後もクリケットの日本代表としてプレーを続けています。

仕事の傍ら、週末になると佐野市に通って練習や試合を行う日々が続いていましたが、佐野市を行き来する時間がもったいないと感じ、思い切って佐野市に移住を決意しました。勤めている会社の理解もあり、リモートワークなどを活用し、佐野市に住みながら仕事も続けることができています。

佐野の人は優しく温かい人が多く、佐野らーめんも好きで、アウトレットがあるなど買い物にも困らないのでとても生活しやすいです。

今は、縁あって佐野市の方と結婚し、昨年には第一子の息子も生まれました。仕事と子育てにクリケットと忙しくも充実した日々を送っています。

将来の夢は、日本男子初のワールドカップ出場です！今年はワールドカップ最終予選も控えているため、夢の実現に向けて練習に励みたいと思います。

新規登録すると
紅茶一杯無料 / Tea roomで
使えるよ！

クリケットのまち佐野公式LINE

佐野のクリケットニュースやイベント情報、お得な情報を
配信しています！ ぜひ友だち登録をお願いします！



佐野市在住 /

日本人初のプロクリケット選手 ●

宮地 静香さん Miyaji Shizuka

2021年12月に、佐野市在住の宮地静香選手が日本人で初めてクリケットのプロ契約を結びました。宮地さんは、兵庫県出身で2001年に大学入学を機にクリケットを始め、2006年には佐野市に移住、同年開催された東アジア太平洋大会で初めて女子日本代表としてデビューしました。以来、日本代表最多の70試合以上に出場し、ボーラーとして女子日本代表最多奪ウィケット記録を樹立するなど、日本代表の投打の中核としてチームを牽引してきました(記録はいずれも現在は更新されています)。

そして、日本代表として国際大会で活躍する傍ら、ニュージーランドやオーストラリアなど海外でもプレー経験を重ね、プロ契約締結に至りました。